

こんな本を読んできました

ロシア、日本、イギリス、フランス、アメリカ、カナダ。これは著者のナージャさんが学生時代を過ごした国の名前です。6歳から15歳まで毎年転校をするナージャさんは国が違うと常識がひっくり返ることの連続でした。

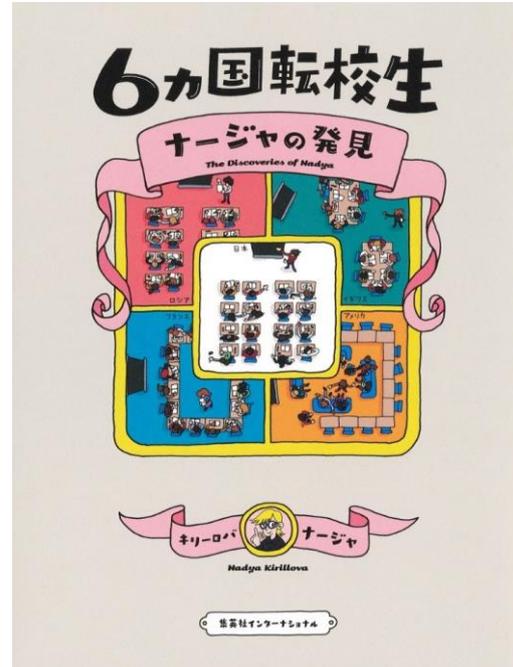
ロシアでより速く泳げるようにと教わった水泳は、日本に行けばフォームが正しくないと思われ、アメリカではサバイバル技術として長く泳ぐことが求められました。ころころ変わっていく指導方法に、読んでいる私も目が回りそう。同時に大切にしているものがこんなにも違うのかと世界の広さを感じました。

価値観の違う世界の学生体験をとおして、自分なら何を選んで、どうしたいのかが解ってくる不思議な本です。

タイトル 6カ国転校生ナージャの発見

著者 キリーロバ・ナージャ

出版 集英社インターナショナル



呉市の歴史と関わりの深い「海」に関する所蔵資料を紹介します。



タイトル 寝ても覚めてもアザラシ救助隊

著者 岡崎 雅子

発行 実業之日本社

この本は日本唯一のアザラシ保護施設で働く飼育員、岡崎さんのエッセイです。

アザラシの魅力が詰まっているこの本の中で特に驚いたのが、アザラシは自分の名前だけではなく、他のアザラシの名前も認識していることです。餌やりの時に他のアザラシが呼ばれるとそのアザラシに近寄っていき餌を横取りしようとするほど賢いのだそうです。私も「ようちゃん」とか「ひかるくん」とかアザラシの名前を呼んで餌をあげてみたいくなりました。

岡崎さんは小学生の頃にアザラシのぬいぐるみに出会いアザラシの虜になりました。その魅力だけでなく、アザラシと向き合う中での奮闘や保護することの難しさが書かれています。とにかくアザラシ愛に溢れた一冊なので読んでみてください！

「好き」を貫くことの素晴らしさを彼女のまっすぐな愛が教えてくれます。